

2013年の米国における R&D 支出、国内総生産を上回るペースで増加（1月21日）

米国科学財団（National Science Foundation : NSF）傘下の米国科学工学統計センター（National Center for Science and Engineering Statistics : NCSES）が発表した報告書「2013年の米国における研究開発費は増加し、国内総生産を遥かに上回るペース（U.S. R&D Increased in 2013, Well Ahead of the Pace of Gross Domestic Product）」から、2013年の米国の研究開発（R&D）支出総額は、前年比207億ドル増の4,561億ドルであることが明らかにされた。米国におけるR&Dシステムは、企業、連邦政府、連邦政府以外の政府、大学、非営利団体など、様々な種類のセクタで構成されるが、2013年のR&D支出において最も大きな割合を占めたのは企業で、支出額は前年比203億ドル増で全体の71%に相当する3,225億ドルであった。なお、1993年～2013年の間に企業によるR&D支出が全体に占める割合は68～74%となっている。それ以外のセクタは、大学が全体の14%に相当する647億ドル、連邦政府が全体の11%に相当する499億ドル、その他の非営利組織が全体の4%に相当する186億ドルなどとなっている。

なお、本報告書は、<<http://www.nsf.gov/statistics/2015/nsf15330/>>から閲覧可能。

National Science Foundation, *U.S. R&D increased in 2013, well ahead of the pace of gross domestic product*
http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=137426&org=NSF&from=news